

平成29年度 第2回 津市教科用図書調査研究委員会 議事概要

1 日 時 平成29年7月19日(水) 9:00～14:30

2 場 所 津市教育委員会庁舎 教育委員会室

3 出席者 委員

津市教育長 倉田 幸則(会長)

津市教育委員 上島 均(副会長)

校長代表 尾崎 美恵子

校長代表 川合 陽一郎

幼稚園長代表 堀内 由香里

保護者代表 野田 昌志

保護者代表 眞部 貴子

事務局

津市教育委員会事務局

学校教育・人権教育担当理事 森 昌彦

教育研究支援課 課長 伊藤 雅子

主幹 川原田 元

副主幹 辻 由美子

4 事項

(1) 開会・会長挨拶

(2) 第1回津市教科用図書調査研究委員会議事要旨の確認

(3) 教科書展示会の報告

(4) 道徳科の概要

(5) 議事

ア 調査委員会による調査結果等の報告について

(ア) 各見本本の調査報告及び質疑応答

① 東京書籍

② 学校図書

③ 教育出版

④ 光村図書

⑤ 日本文教出版

⑥ 光文書院

⑦ 学研教育みらい

⑧ 廣済堂あかつき

(イ) 採択候補について

イ 調査研究結果の検討

(6) その他連絡事項

(7) 閉会

5 議事

(1) 事項(1)について

開会 倉田会長より挨拶

今日は、平成30年度からの道徳の教科化ということで、小学校の道徳の教科書について審議していただきます。これまでの調査員の教科書の検討の結果を受けて、適切な教科書についてご審議いただくようよろしくお願いします。

(2) 事項(2)について

「第1回津市教科用図書調査研究委員会議事要旨」が承認された。

(3) 事項(3)について

事務局から教科書展示会の報告があった。来会者は91名であった。

《質問》

委員： その他20名とはどんな関係の人ですか。

事務局： 一般の方です。個人又は数名の方で来てじっくり見られて意見を書いていたいているようでした。

(4) 事項(4)について

事務局から、道徳科の概要について説明があった。

また、道徳が教科化になった経緯やこれまでの道徳と特別の教科道徳の違いについてなどが説明された。また、道徳科の内容項目についても説明があった。

《質問》

委員： 全国的な課題として量的確保があると説明がありましたが、大きな原因は何ですか。

事務局： 一概には言えませんが、一般的には、学習指導要領の趣旨が十分把握されていないことが考えられます。

委員： 通知表に記載するという評価は、30年度から小学校、31年度は中学校で始まりますが、5段階評価という形になるのでしょうか。

事務局： 小中学校ともに、数字での評価ではなく文章記述による評価になります。

(5) 事項(5)議事ア調査委員会による調査結果等の報告について

(ア) 各見本本の調査報告及び質疑・応答

調査員代表から、「平成30年度使用小学校用『特別の教科道徳』教科用図書調査報告書」に沿って、調査結果の報告があった。

各教科書会社についての報告、及び質疑応答は以下のとおりであった。

① 東京書籍

調査員代表より報告書1, 2ページに沿って東京書籍についての調査報告があった。

委員： 子どもには難しいとか、扱いにくいという点ではどうでしたか。

代表： 気になる点としては、それぞれの作品の後ろや前に、出典が載っていないことです。これから道徳科の学習を進めていくにあたり、学習内容を発展させたり他教科と関連させたりすることもあります。その際、情報が検索しにくくなります。

委員： 各8社に共通することですが、今回新学習指導要領になって内容項目が追加になり、特にいじめの問題の対応として、公平公正、社会正義という項目がありましたけれども、その辺の扱いはどうでしたか。それから、低学年での国際理解の教材の質はどうだったのでしょうか。

代 表： 国際理解についての教材の質は、8社でそんなに大きな違いはありません。しかし、読みやすさとか使いやすさについては違いがあります。公正公平と社会正義に係る内容項目に関しては、各社ともきちんと取り扱っております。なお、該当する教材をどう指導するかは、子どもの実態も異なるので、その先生の裁量になる部分もあります。

委 員： 目の前にある課題、子どもたちの課題に対してどうこれを扱うかということとは、教師の判断や力量になってくるということですか。

代 表： そうなると思います。各学校では、35時間分の年間計画を立てますが、状況に応じて、ある程度の変更はあるかもしれません。

委 員： その辺はカリキュラムマネジメントだと思います。

代 表： 小学校1年生では、内容項目が19項目あり、それを35時間で指導します。子どもたちにとってより適切だと判断できれば、学校長の許可を得て、教材の差し替えをすることもあると思います。ただし、内容項目に落ちがないようにやっていかなければいけないと思います。

委 員： 低学年の教科書を読んでいると、文字が多いなと感じるものもありますね。

代 表： 1年生の導入は非常に大切で、1年生はまだ文字が読めない子もいますので、この東京書籍は文章が少なく評価できるというのが調査員の意見です。

② 学校図書

調査員代表より報告書3、4ページに沿って学校図書についての調査報告があった。

委 員： 教科書単独で1冊の形態と別冊ノートが付いて2冊になっている形態のものがありますが、調査員の方々の評価はどうでしたか。

代 表： ノートがあるのが3社です。ノートの内容・構成には各社特色があります。ノートにやり残しが出たり、この教材ではこういうことに迫りたいのにノートにしばられて、やりにくいのではないかというのが調査員の考えです。書かせて子どもの考えをしっかりと聴く場合は、ワークシートなどを用意した方がよいと思います。

委 員： 「考え、議論する道徳」を進める上で使いにくいということですね。

代 表： 例えば、現行の理科の教科書には、理科プラスという別冊がありますが、家に忘れてきたり、紛失したりする子もいます。分冊になると教室で預からないと難しいところもありますので、付いているノートを使用するのではなく、各個人で用意するか、教員が工夫したワークシートを配布する方がよいという見解です。

委 員： 子どもたちがあれを見たりこれを見たりとついていける子はよいが、そんな子どもたちばかりではありませんので、やはり1冊のほうが使いやすいと思います。確かに、先ほど言われたように、そこに縛られてしまうと自分たちが伝えたいことが伝えられなかったり、教師の方から子どもたちに伝えたいことが伝えづらかったりすることもあると思います。書き込みスペースも限られてしまうので、独自の用紙を準備するほうがよいと思います。

それともう1つ、低学年から文字が多いと思いました。

委 員： あまり書かせると子どもによっては道徳が嫌いになってしまうと思います。読むだけでもものすごく価値があると思います。書く時間を確保することは必要ですが、津市では、グループ学習を実施する場面も多いので、自分の意見や考えを出すという場面をたくさん設けてやらなければいけないと思います。そう考え

ると、付属のノートに引っ張られてしまうとよくないと思います。

③ 教育出版

調査員代表より報告書5，6ページに沿って教育出版についての調査報告があった。

委員： 教育出版は、1年生を除いて本教材が30で、補助教材が5つです。ほかの教科書は、1年生が34で他は35になっています。補助教材的な扱いで5つ入れてあるということでしょうか。

代表： 本教材が30で、年間の35時間の指導ができるような時間配分になっています。各校の重点項目等に合わせて、5つの補助教材の中から、必要に応じて差し替えることができます。

委員： 例えば、2年生の補助教材が5つのうち命や自然に関わる部分が4教材で、集団生活に関わるものが1教材です。教材の軽重が若干あると思うのですがどうでしょうか。

代表： どこを重点項目にするかは学校が選ぶことです。教科書会社としては、生命尊重やいじめや規則を重点項目にしてありますが、それは子どもたちの実態や学校の地域性によって差し替えをしていきます。

委員： 教科書展示の意見にもありましたけれど、5年生141ページに現役の政治家の写真が載っています。道德の教科書にしてはどうかと思います。

委員： 教育出版について、その他の点について、調査員の意見はどうでしたか。

代表： 教育出版は、一つの内容項目を指導する複数の教材がまとめて掲載されています。子どもは何度も何度も繰り返し学習しないと理解を深められない場合もあるので、2時間同じ項目でやるよりは、時期を変えて再度やった方がよいのではという意見がありました。

委員： まとめて学習することで、深められるということもあるので、一概には言えないですね。

④ 光村図書

調査員代表より報告書7，8ページに沿って光村図書についての調査報告があった。

委員： クラスをつくる段階の4月・5月に、例えば1年生なら「はしのうえのおおかみ」を学習し、そのあとで「やめなさい」を学習し、そしていじめを考えるコラムがある、という配列がいいと思います。

もう1点は、三重県は生命の尊重を大事にしていますが、ほかの項目は1教材とか2教材ですが、生命の尊重だけ全学年3教材ずつあります。その辺の評価はどうですか。

代表： 特に3つあることについて調査員の意見は交換しませんでした。ただ、生命誌研究所の中村さんの教材について、本当に心に響くのかという意見が出ました。

委員： それはわたしも若干感じました。子ども内面に迫れるのかどうかと言ったらちょっと弱さがあると思います。

委員： 子どもがこの教科書を手に取った時に、「きみがいちばんひかるとき」と表紙に書いてある言葉を毎回見ながら授業に入っていくというのは魅力的だなと思いました。それから、6年生の教科書には、読み物教材ではないのですが、読み物として読んでも心に深く残る教材があります。心に残る教材をみんなと一緒に学ぶというのは、子どもたちの発達によい影響を及ぼすと思いました。

代 表： 男女の性差別が固定化されないような作り方がしてあるということが趣意書に書いてありました。ただ、1年生の導入について、生活科と似過ぎているという指摘が、1年生の担任をしている調査員からありました。他にも国語の教科書とイメージが重なるような作りをしています。また、教科と関連し過ぎていて、理科かな、国語かな、と思うような教材があった点が気になりました。しかし、ジェンダーの視点で、挿絵等が工夫されているなど、人権的な配慮が十分なされています。

⑤ 日本文教出版

調査員代表より報告書9, 10ページに沿って教育出版についての調査報告があった。

委 員： 教科書の大きさについて、どんな意見がでましたか。

代 表： 日文は上部の余白が多いです。1番大きいサイズの教科書は、その分ページ数が少なく、軽くなっています。今の教科書は重いので、できるだけページ数が少なく、軽い方がいいという意見はありました。サイズは、A4版がいいということです。

委 員： 教科書というのは大体A4版なのですか。

代 表： 教科書会社によって違います。

委 員： 上の余白は頭注を入れるためにあるのですね。頭注が何もないから余白ができるわけですね。

代 表： その分軽量化してもらった方がいいのではないのでしょうか。

⑥ 光文書院

調査員代表より報告書11, 12ページに沿って教育出版についての調査報告があった。

委 員： 光文にも補助教材があり各学年で重点教材を配置して編集されています。各学年によって重点項目が違いますが、その点について、どういう意見がありましたか。

代 表： 年間計画を立てる時、補助教材がついているので、どう配置し、どこを削るのかということで時間がかかるのかな、という議論はありました。また、1年生の導入では文字が多すぎるという意見が出ていました。もう1つ調査員から出てきた課題は、1年生の最後の自己評価で、学期毎に、このマスに1年生がまとめることは、難しいという意見がありました。また、高学年では淡々と縦に書くようになっていますが、1行日記のようで、これもどうなのかという意見が出ていました。

委 員： 文字も多いし、内容も難しいですね。例えば1年生ですが「ネットマナーとはなんでしょうか」は、高学年でもよさそうなくらいの内容です。1年生からこういった教育をしていくのは大切だとは思いますが、もう少し発達段階に応じた内容にすべきだと思います。

代 表： 調査員からは、1年生で何もしないよりはした方がいいという意見が出ていましたけども、情報量が多すぎるという意見がありました。

⑦ 学研教育みらい

調査員代表より報告書13, 14ページに沿って教育出版についての調査報告があった。

委 員： この教科書は、現在活躍している人々や、歴史上の人物と出会うことができる教材が各学年に入っています。それから、A4サイズの見開きで、きつ

ちりと整理してあるので子どもたちにとって使い勝手がいいと思いました。
もう1点、命の教材を読んでいると、各学年涙の出るような教材で質のいいものだと感じました。

委員： ただし、現在活躍している人たちが取り上げられるのは非常に怖いところもあると思います。何か問題があったときにどうするのかということもあります。

委員： 過去の人物は価値が定まっていますからね。

代表： 教材文はすごくいいのですが課題もあり、2年生の106ページですが、ジェンダーの視点が気になります。ひな祭りは女の子の節句、端午の節句は男の子の節句と昔からいわれ、伝統文化なので事実なのでしょうが、「女の子みんな大きくなあれ」「男の子みんな大きくなあれ」と両方書いてあるけれども、今はLGBTの話がありますし、「みんなみんな大きくなあれ」のような書き方だと良かったと思います。それから、1年生の七夕の教材で短冊を書くところがありますが、過去に七夕集会に宗教的な理由で出られない子どもさんがいたので、もしかしたら書けませんという子どもがいるかもしれないので、その際は、教材を差し替える等の対応が必要になります。

⑧ 廣済堂あかつき

調査員代表より報告書15、16ページに沿って教育出版についての調査報告があった。

委員： 重点項目について、低学年が「節度と節制と規則の尊重」、中学年が「規則の尊重」、高学年が「伝統文化の尊重、郷土を愛する態度」となっています。「生命の尊重」は入っておらず、この項目を選択した点についてどうなのかと思います。

代表： 気になるところではありますが、重点項目については学校や地域の実態等に合わせて、学校が設定しますので、マイナスとは言えません。ただし、「生命の尊さ」を重点項目に設定する学校は多いと思いますので、そういう学校にとっては、その項目の内容がやや少ないかなと思います。

委員： 1年生の最初は「たのしいがっこうがはじまるよ」から始まりますが、これは道徳でなくても生活科等でやる内容です。道徳と生活の住み分けが難しいと思うのですが。

代表： その点では生活科に近い内容であるので、重なりがあると思います。

委員： 生活科で捉える部分と道徳科で捉える部分の選択が難しいですね。

委員： 編集委員を見ましたが、例えば特別支援教育の専門の人が編集員の中にいるかどうかは分かりませんね。

代表： それは分かりませんが、編集趣意書には、ユニバーサルデザイン・特別支援教育に配慮してある旨の記述があります。

委員： 巻末に、特別支援教育に係る校閲が誰によってなされたかが書かれている教科書もあります。

最後に全体を通しての議論が行われた。

代表： まず、付属のノートが必要かどうかについて議論しました。現場としては、ノートが付属されている方がかえって使いづらいということから、ノートなしの教科書が良いという結論になりました。

委員： わたしもそう思いました。

- 委員： 賛成。
- 委員： ベテランの教員には不必要だと思いますが、初任者など経験が浅い教員は、ノート付きがよいと思うのではないのでしょうか。
- 代表： 指導書には、ワークシートが印刷できるCDが付いているようですので、形式が変更出来て、臨機応変に子どもの実態に合うことができる、ワークシートを活用する方がよいという意見が調査会では出ました。
- 委員： もう1つ、どの会社も、教科書の順番通りやっていけば年間行事のことを考えて、うまくやっていけるようになっていきますか。
- 代表： 基本的にはそうなっているように思います。今、運動会が春と秋にあります。運動会に関わったものではなくスポーツという括りになっていますので、それほど支障はないと思います。ただ、1年生の4月の始めは「挨拶、規則、後片付け」などが配置されている方がよいという意見がありましたが、大体の教科書がそのようになっていました。
- 委員： もう1つ、学んだことが理解されているのか評価が難しいですが、評価がしやすい工夫として、どのようなものがありましたか。
- 代表： 学習途中での文章記述や振り返りの記述など、記録を残すようになっていると評価がやりやすいと思います。
- 委員： 上手に表現できない子の評価がどうなるのでしょうか。何も上手に文章を書く子が道徳的に優れているわけではありません。よく書いていなくても、自分の気持ちの中で道徳的に優れている子はいるし、そういった子を救ってあげられないのでしょうか。
- 代表： 授業における児童の発言や様子を踏まえたうえで、ノート等に記載されている内容とを併せて評価するのではないかと思います。
- 委員： 文科省もパフォーマンス評価とポートフォリオ評価を合わせながら客観的にその子の成長を評価して文章化しようといっているが、評価材料をきちんと蓄積しないと難しいと思います。
- 委員： 教材だけで終わってはいけないので、自分のこととして考えやすくなっている光村が良かったかな、と思いました。
- 委員： 教科書の読みやすさについて検討はしましたか。
- 代表： 各調査員で確認して問題となる点はありませんでしたが、文字の大きさによって、読みやすさに違いがあるとは言えます。

(イ) 採択候補について

調査員代表より選定案に沿って報告があった。

- 委員： もっとも相応しい教科書について、調査員個々の選定案はどうでしたか。
- 代表： 調査員は6名いますが、学研が4名、光村が1名、東書が1名でした。
- 委員： 学研の課題は何ですか。
- 代表： ジェンダーの視点がやや弱い点です。意見が出たのは、2年生P106からの「大きくなあれ しあわせになあれ」にある、男の子、女の子のところ。その点、光村は、配慮がなされています。
- 委員： その意見も含めて、学研になったわけですね。
- 代表： はい。
- 委員： 付属のノートはやめておこうというのは基準としてあったのでしょうか。
- 代表： はい。

- 委員：ユニバーサルデザインに配慮がなされているとはいえ、光村は文字が小さいですね。
- 代表：調査員の検討では、総合的に見て内容については大きな差はありませんでした。6年生の分量を比べると、東書は192ページで文字は中くらい、学研は164ページで文字は大きめ、光村は200ページを越えて文字は小さめになっています。振り返りの部分を比べると、3社に関しては無理のない程度になっています。
- 委員：わたしも光村か学研かと思います。内容的に子どもと一緒に読みたいですし、6年生の教科書の文字が大きいので、ジェンダーの点で課題があるにしろ、内容はよいと思います。例えば、6年生の情報モラルの教材でLINEの話題があり、非常に具体的な提示の仕方がされています。
- 委員：別の質問ですが、その学年の漢字のふりがなとか、それまでに習得した漢字のふりがなは全部抜いてあるのですね。
- 代表：当該学年以降に配当されている漢字にはすべてふりがながあります。
- 委員：ユニバーサルデザインなら、外国から来た児童にとってはふりがながあるとよいと思います。国語ではないので、そのくらいの配慮があればよいのですが。
- 委員：考え、議論する道德への転換という観点で見た時はどうですか。
- 代表：それに資するための工夫が教材にはなされていますが、議論してとなると結局は、教員による指導（授業の展開）に大きく左右されると思います。
- 委員：子どもが教科書を読めることが大切だと思います。読んで感覚的に感動できるとよい。読めない子はどうしたらよいのかという問題があります。
- 代表：そういった実態があれば、先生が範読するといいいと思います。CDも利用できればよいですね。
- 委員：範読を聞いて理解していくのもありですね。学研は、文章を理解するための挿絵の入れ方もいいです。
- 代表：挿絵については、好き嫌いがありますが、学研は、読んで感動する作品は充実していました。

(6) 事項(5)議事Ⅱ調査研究結果の検討について
調査員代表の選定案について検討が行われた。

- 委員：光村は、見た目が道德というより国語の教科書という印象があります。子どもたちが見ても国語が2つあるという感覚を受けてしまうのではないのでしょうか。学研は、サイズも大きく、1年生でも手に取りやすいと思います。6年生でも挿絵が多く、文章の内容も興味を引くものが多くて読みやすいという印象を受けました。
- 委員：道德は学校だけでする教科ではないと思います。家庭に持ち帰ってきたときに、親にも見やすく、読みやすいという観点でいくと学研はよいのではないかと思います。道德は、家庭学習という点で保護者の勉強でもあると思うので子どもと親、両者を含めて取り組みやすい教材である方がよいのではないのでしょうか。
- 委員：学研は、幼稚園から小学校1年生へのつながりがよく考えられていると思いました。スタートから文字が多いよりも挿絵から子どもたちの感じる気持ちを引き出してくれるような教科書がよいと思います。学研は、挿絵も多く、

子どもたちが自然と声に出していけるような内容になっていると思います。

もう一つ、挨拶やルールが先行し、モラルが先にきてしまうと子どもたちが卒にはまってしまう。道徳という教科なので、指導して子どもたちの学びにつなげていくことは大事だとは思いますが、良いことをすると気持ちが良いという感性を育むような内容であって欲しいと思いました。

また、教科書を保護者と見る機会は大事だと思います。子どもと保護者が家庭で共に話し合うことで、道徳的な価値を自分事として理解していくと思うので、保護者が見やすいという意見は、その通りだと思います。

委員： その子が経験してきたことに幅があり、経験したことで育まれた感性が道徳の学習に影響してくると思いますが、評価は、そういうところも考えて記述という形にしたのでしょうか。

事務局： 問題をどの程度解けたかといった具合に、数字で評価できるものではなく、学習指導要領によると、その子の道徳性に係る成長の様子を継続的に見て評価するとあります。成長を促す評価という点で、その子の背景、普段の様子を含めて文章で評価することになります。

委員： 教育委員会には、教科書の大きな特徴を挙げた上で、研究結果としてこれをもっとも相応しいということが報告されればよいと思います。

事務局： 今回協議された内容を整理して、教育委員会に報告させていただきます。

委員： 光村と学研でジェンダーへの配慮に違いがあるという点ではどうですか。

委員： 保護者の立場としては気になりません。宗教的な立場で気になる保護者もいらっしゃるかもしれませんが、各先生の裁量で言い換えてもらえればいいのではないのでしょうか。各学校、各先生の判断で授業に配慮すれば問題ないと思います。

事務局： ジェンダーに関わって人権教育課に確認をしたところ、内容項目は伝統文化の尊重での取り扱いなので問題はないが、担任は、クラスの中にトランスジェンダーの児童がいるかもしれないという点について配慮しながら授業をする必要があるという見解でした。

委員： 実態に合わせて文科省からすでに発行された「わたしたちの道徳」の中の教材と差し替えをしてもよいのですか。

代表： 差し替える方法もありますが、そこをきちっと押さえた上で取り扱えばよいと思います。

委員： 来会者アンケートでは、「かぼちゃのつる」という教材は科学性を否定しているとの意見がありましたが、多くの出版社に採用され、評価された教材といえるのではないのでしょうか。

事務局： 道徳科について教師がどのようなスタンスで授業に臨むかについて、教材の道徳的諸価値をしっかりと押さえた上で、子どものいろいろな意見を教師の価値観で切っていくのではなく、子どもたちの多様な意見を拾い、それを整理しながら、子どもたちが多面的・多角的に考えられるようにすることが大事、ということを先生方には伝えているところです。子どもたちは、内容項目をあまり意識せずに教材と向き合っていくので、多様な視点から議論しながら道徳的諸価値を理解していくことに道徳を学習する面白さがあると思います。

事務局： 光村の6年生の教科書では、タレントの意見として「残念ですがいじめは

無くすることができないと思います。」という記述があります。あくまでもタレント個人の意見ですが、気になるという指摘が人権教育課からありました。

委員： 「なくなりません。」と言い切るのはよくないが、「いじめはなくなる。」の後にいじめをなくすためにはどのようなことをしていけばいいかということが書かれています。ここが大事で、後のことを考えるための投げかけということから問題ないと思います。

委員： これは最初のテーマがいじめについて考え続けようなので、その瞬間でなく、ずっと考え続ける中でみんなが知恵を出しながら考え続けていくということが大事だと思います。

委員： その言葉以前に、命の尊さを取り入れて道徳教育をやっていると思いますが、そことつながってくるのではないのでしょうか。命の尊さを軽んじているがゆえに相手をいじめて、また自殺に追い込んでいくということになります。道徳教育で命の大切さをうまく子どもたちに伝えられたら、いじめはだめだということにつながってくるのではないかと思います。

委員： いじめ問題は身近な問題です。いろいろな見方で先生方に指導していただければありがたいです。多様な問題提起が教科書からなされていますから。

事務局： 最後は、学研と光村に絞って調査委員会で議論しましたが、いずれの教科書になっても、子どもの実態を踏まえながら、教師が一つ一つの教材をしっかり解釈して、授業で適切に指導することが大事であるということが確認されました。また、道徳の授業にあたって、教師も子どもたちと一緒に、教材を自分のこととして捉え、道徳的諸価値について理解を深めていかななくてはいけないという旨が、学習指導要領の解説に書かれています。そのことを十分踏まえながら、授業をしていくことが大事ということも確認されました。

調査員からの報告と調査研究委員会での協議内容を、8月2日の教育委員会に報告することが承認された。

(7) 事項(6)について

その他連絡事項

教育委員会には、事務局員とともに調査員代表も出席し、調査結果等について報告することが確認された。

(8) 事項(7)について

閉会 事務局から閉会挨拶